

笠捨山と槍ヶ岳に靡看板設置

◇実施日：2020年11月29日（日）晴

◇参加者

笠捨山：沖崎吉信、濱野兼吉、山川治雄、岩本信行、畑林清子、

生熊千満子、高階美根子 7名

高橋桂太、奥理恵子（名古屋市） 2名

槍ヶ岳：豊嶋寛、児嶋道夫、中前偉、梶野照雄 4名

行仙宿：生熊敏男 1名

計14名

奥駈75靡の内、1番から40番までの靡に看板を設置している。この中で熊野三山の1番から3番迄と、場所が判らない30番千草岳を除いた36ヶ所に靡看板を設置することになっている。

一昨年からスタートして、23ヶ所に看板設置を完了しており、今回の2ヶ所で25の靡に看板を設置したことになる。

今年最後の看板設置となるであろう山行に14名の皆さんが参加された。

朝8時30分、登山口に集合、名古屋から日帰り参加された高橋、奥の両名を紹介。本日の作業予定や笠捨山、槍ヶ岳班の組分けなどを説明して登り始める。川島前代表の逝去場所に立ち寄り、児嶋さんが持参した生花を供え、中前君が心経を唱え全員手を合わせて供養する。



川島さんの慰霊



30kg近い薪を運ぶ



本日の参加者

モノレール終点から杭や標板、道具類を分担して小屋に向かう。送電線下の伐採地で、先日梶野君が小切つてデポしてある薪を各自何本かを持つ中、豊嶋さんは背負子に20本近い薪を括りつけて小屋迄運び上げた。重量は30kgを越えていたようだ。

「皆さん、豊嶋さんは85才ですよ！」いやはや、まいった、まいった。

全員が小屋に揃ったところで道具類の確認を行い、9時50分、槍ヶ岳班、笠捨山班の順に出発した。

生熊（敏）さんは莊川桜のネット張替えのため一人行仙宿に残って作業された。

【笠捨山班】旧通信道の分岐で槍ヶ岳班を見送り登りだす。通信道分岐の道標は、杭、標板ともに腐食が進んでいるので、交換が必要だ。行仙宿から30分ほどの所に登山道の東側が崩落している場所がある。特別危険なわけではないが、注意喚起のために5本の杭を



旧通信道分岐で



ロープ取替の必要あり



山頂で杭を打ち込む

打ちトラロープで防止策をとっているが、ロープがかなり傷んでいて取替が必要だ。笠捨山の最後の登り、鞍部から10分位登った所が小さな峪状になっている。ここは右上に登るのが正規ルートであるが、直登する人が多いのか、尾根までのルートが複数出来上がってしまっているのが、迷いの原因となることも考えられる。以前、三井さんからもご指摘いただいたので、今回道標を1枚設置し、白の幅広テープと白スプレーで丸印も加えた。



靡看板設置



風を避けて休憩



行仙宿に戻る

1時間50分で笠捨山山頂に着く。奥駈道に崩れや倒木は皆無だった。到着後すぐに靡看板設置に取り掛かる。碑伝のある行場右後方に杭を打つ。杭はスムーズに打ち込めて靡看板設置は完了、足元に石を積んで補強した。

30分ほど後で山頂に登ってきた3人組から「道標のお蔭でスムーズに登ってこられた」と感謝の言葉を頂いた。

昼食時、トレランの3人組が登ってきた。持経宿から3時間半でここまでやってきたそう。12時半過ぎに山頂を後にして、午後2時半少し前に行仙宿に戻った。
(記：沖崎)

行動タイム

行仙宿 09:50 → 10:05 旧通信道分岐 → 11:45 笠捨山 12:30 → 14:00 行仙宿

【槍ヶ岳班】旧通信道(笠捨山捲き道)を歩くのは2018年3月以来なので、登山道の状態が気になるところだ。



鉄塔付近は相変わらず



潜らなければ通れない



落ちた栈木を拾い上げる

豊嶋さんを先頭に歩くが、今年は台風の上陸も無く、大雨も降っていないので、登山道は大きな荒れ方も無く、2年前と殆ど変わりはない。先頭の豊嶋さんはしばらくこの道を通っていないので「荒れてるな、歩きにくいワ」と言いながらゆつくり進んだ。鉄塔先のベンチで休憩。ベンチから少し先、以前枝先を切除した倒木が下に下がってきて、枝の間をくぐり抜けなければならぬ状態になっていた。いずれは切除しなければならぬが、枝の多い大木なので慎重な作業が求められる。



鉄塔広場で昼食

槍ヶ岳直下に標識

鉄筋4本で補強

何度目かのガレた沢を越したところで、豊嶋さんがつまずき、ひざ付近に打撲傷。ここから一層慎重になられた。

2時間半弱で26番鉄塔広場に到着。12時を過ぎていたので昼食にする。中前さんは少し前から右足の不調を訴える。

食後、槍ヶ岳に向かう。20分程で槍ヶ岳の鞍部、石柱のある場所に到着。鞍部に降りる手前は左に登る必要があるが、直進の深い谷

に下るように踏み跡がくつきり付いていた。間違えようと思つて上から見ていたら、案の定、児嶋さんが直進して下り始めた。上から大声で間違いを知らせる。ここには帰りに児嶋さんがロープを張って誤侵入を防ぐ措置をとった。



摩看板設置

トレランの3人と

誤侵入防止にロープ

4人が揃い摩看板を設置する。石柱の傍は岩だらけなので、谷側の離れた場所に杭を立てる。30cm位は打ち込めた。周りに児嶋さんが用意した鉄筋4本を打ち込み、針金で縛って補強した。周辺に岩は無く、石積での補強は難しい。

作業終了間際にトレランの3人が通過する。21世紀の森に車を置き、R425、白谷林道を走って持経宿まで行き、持経宿から奥駈道を走って21世紀の森へ降りるそうだ。「笠捨山で皆さんとお会いしました。行仙宿でもお一人おられました」と話してくれた。この3人を加え7人で写真を撮り行仙宿に戻る。

葛川辻付近で携帯電話が圏内になる場所があったので沖崎さん

にメールを入れた。豊嶋さんは旧遞信道を戻らずに、笠捨山経由の奥駈道を戻られた。

午後3時45分、我々3人が行仙宿に到着して約5分後に豊嶋さんが戻ってこられた。

(記：梶野)

行動タイム

10:03 旧遞信道分岐→10:31 鉄塔ベンチ 12:18 鉄塔広場・昼食
↓13:07 槍ヶ岳の鞍部 13:32→葛川辻 14:05→15:30 旧遞信道分岐
↓15:45 行仙宿